

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

池工、県ヶ丘常念・蝶交差縦走

以前、松田大氏と「北アルプスで一番思い入れのある山はどこだろう」と話をしたことがある。松田さんにとってのそれは蝶だが、僕にとっては常念というのがその時互いの口からすぐに出てきた結論だった。松田さんが写真を撮りに何度も通ったのが蝶ならば、僕が学生時代からバイトで入り浸っていたのが常念だった。・・・この隣り合った二つの山に、奇しくも県ヶ丘高校は時計回りで、池田工業は反時計回りで同日に登った。県ヶ丘は当初6月16日・17日に計画していたそうだが、雨の予報で中止したと聞いて、「それなら7月7、8で一緒に行きませんか？」とのお誘いをかけたのは僕だった。当初から僕は常念でのテ泊を考えていたが、松田さんのそれは蝶だった。そんなわけで、7日朝、雨の降る三股登山口には、両校の山岳部の生徒顧問30名近くが集まった。

池工の山岳部の今回の山行参加者は生徒が11名（3年1、2年2、1年8）、顧問3名にコーチ1名の総勢15名。三股から常念8合目の分岐まで1500mの登りである。行き帰りの交通費の縮減も高校山岳部には重要な要素故、敢えて一ノ沢から登らずに一筆書きのできる三股から前常念経由で常念乗越を目指した。生徒は3人の上級生をリーダーに3班に分け、県ヶ丘の面々には稜線上で会おうと一足先に8時30分に出発した。今回も前回の鍬ノ峰同様梅雨時の雨は織り込み済み。とはいえ、最初から雨具を来ての蒸れ蒸れ登山には少し閉口。しかし、9時30分に最初の一本を登り終える頃には雨は上がった。その後は、雨上がり後の虫に悩まされながらも樹林帯の中を快調に高度を稼いで行く。11:45標高2200mを越えると、前常念が大きく正面に見えてきた。左手の木の間越しには蝶乗越から蝶槍へ続く稜線も覗き見える。12:25樹林帯を抜ける手前で少し雨が当たり出したので再びカッパを装着した。13:50前常念を越えると、つがいの雷鳥が出迎えてくれた。そろそろ生徒たちも疲れて来たようだが、この雷鳥に元気をもらい、最後の一頑張り。15:00ようやく常念稜線上8合目の分岐に到着。稜線上では猛烈な風の洗礼を受けた。1年生の生徒にとっては初めて重い荷を背負っての稜線上の強風は予想以上にきつかったようだが、16:00には何とか全員が無事に常念乗越に到着した。

小屋の支配人の山崎さんに挨拶すると「先生、よく来たねえ」と大歓迎を受けた。たまたま帳場にいたアルバイト嬢が飛騨神岡高校の山岳部OBだという。実は岐阜県の高体連に加盟校がなくなると伝えると、千葉、長崎、島根とIHに3年連続で出場したという彼女は何度も「残念です」と繰り返しつつやき、母校の山岳部が消えたことが有り得ないという表情で本当に寂しそうであった。いったんテントに戻って夕食を済ませた後、去年、僕が海外へ行く関係で夏合宿を組めないからと、常念でのバイトを紹介した3年のNと2年のSを伴って仕事の終わった小屋を再び訪ねた。知っているのは支配人の山崎さんだけだったが、居心地のいい常念小屋の雰囲気は変わっていなかった。山崎さんから今年もバイトに来いと言われたNとSは上機嫌。

夜半過ぎからは風雨が強まり、テントを揺らす風は激しかったが、朝には雨も上がった。出発前に、生徒たちに咲いたばかりのコマクサの群落を見せてやったが、あまり興

味を示さなかった。まあ、仕方ないか……。6時に常念を目指して出発。7合目あたりで一本取っていると、槍ヶ岳から奥穂に続く稜線がガスの中から姿を現わした。多くの生徒にとって初めて見る槍ヶ岳。一気にテンションが上がった。「8月にはあそこへ行くぞ」と誓い合う。7時40分、常念山頂。我々が地元の高校山岳部と知って東京から来たという高年の登山者からは羨望の眼差し。さて、今日はここからが長い。まずは常念の大下り。どこで県ヶ丘の面々と出会うだろうかと下っていくと、大下りを3分の2ほど下ったところですれ違った。先方も出発は6時と言うことだった。8時50分コルで一本。曇りでお目当ての景色は見えなくなってしまったが、天気は何とか持ちそうだ。梅雨時の稜線歩きはこんなもんだろう。この稜線はしかし、アップダウンを繰り返しながらここから死ぬほど長い。生徒にはそのことを十分伝えて蝶へと進んでいく。雪はほとんど消えていたが、融けたばかりのところには短い夏を謳歌せんと花が咲き始めている。蝶槍に到着したのは11時20分。途中今日もまた雷鳥の出迎えを受けながら、二重稜線を快適に進み、12時には蝶ヶ岳ヒュッテにたどり着いて大休止。ここで休憩をしていたご夫婦は穂高から来たということだったが、よくよく聞いてみればご主人は池工の大先輩とのこと。エールを送られて生徒たちは疲れも吹っ飛んだ様子。

稜線歩きの後は、ひたすら長い道を下った。途中蝶沢とまめうち平で休憩をとり、三股に到着したのは16時。数えてみればちょうど10時間行動。その間、落後することもなく生徒たちはよく頑張った。4月に入学してから、多い生徒はこれが6回目の山行。1年生も登るたびに強くなって来て頼もしい限り。……で、一方の県ヶ丘は常念乗越から一ノ沢を下ったそうだが、こちらも下山したのは14時30分との由。梅雨時の登山としては大して濡れることもなく、一瞬でも景色を楽しめる御の字の登山だった。

中信安全登山研究会

7月3日に大町北高校で「中信安全登山研究会」が開催され、例年同様地区内の学校登山と夏山クラブ山行についての検討と情報交換がなされた。集まったのは西牧(深志)、小沼(大町)、今滝、藤岡(大町北)に小生の5名だった。学校登山は大町が例年通り8コースで全校登山を計画、大町北も希望者を募って行なうが、こちらは唐松岳登山の1コース。クラブ山行は、大町が猿倉から入って白馬から爺ヶ岳までの後立山を5泊6日で縦走、池工は蓮華温泉から朝日、白馬縦走(2泊3日)と表銀座(3泊4日)の2回の縦走を計画中。深志が例年通りの西穂追悼登山に加え、1泊での燕、2泊3日での潤沢定着合宿の3本立て、とそれぞれに个性的だった。今年は多雪に加え、融雪も遅れているとの情報があったが、各校ともに安全な登山を心がけてほしい。

編集子のひとごと

昨年一緒にヤズィックアグルに登った三戸呂拓也君が月曜日にわざわざ訪ねてくれた。この夏から秋にかけて、ハンテングリ(7010m)、シスパーレ(7611m)、ラクパリ(7043m)と7000mの3峰を連続で登攀するので挨拶に来たとのことだった。翌10日の信毎にシスパーレのことが報道されたので、ご覧になった方もいるかと思う。最終目的は今秋計画されている三浦雄一郎氏のエベレスト登山のサポートだという。健闘を祈りたい。★前号で東海大会の会場を静岡県と記載しましたが、愛知県の誤りでした。読者の一人からご指摘いただきました。お詫びして訂正いたします。(大西記)